

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カリソー株式会社 安城南物流センター	階数	地上2階
建設地	愛知県安城市和泉町大海古5番2、5番3、5番4、5番14、5番15	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	40人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,240時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年4月 予定	評価の実施日	2020年7月7日
敷地面積	10,236 m ²	作成者	藤井良輔
建築面積	5,534 m ²	確認日	2020年8月18日
延床面積	10,103 m ²	確認者	藤井良輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.4

項目	スコア
Q1 室内環境	0.0
Q2 サービス性能	3.5
Q3 室外環境 (敷地内)	1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

項目	スコア
LR1 エネルギー	4.0
LR2 資源・マテリアル	3.1
LR3 敷地外環境	3.3

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.9	③敷地内の緑化	1.0
②資源の有効活用	3.2	④地域材の活用	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積} - \text{法定面積}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体									
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体									
		Q 建築物の環境品質														2.4							
Q1 室内環境														-									
1 音環境														-									
1.1 室内騒音レベル														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.1 室温制御														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.1 昼光利用														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御														5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.1 発生源対策														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
4.3 運用管理														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能														-	-	0.43	-	-	-	-	-	-	3.5
1 機能性														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.1 機能性・使いやすさ														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保														-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性														0.5	2.8	0.52	-	-	-	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数														0.3	3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数														-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														-	4.0	0.15	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔														-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性														0.1	2.2	0.19	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備														3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法														3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備														3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	

給水管、給湯管、汚水管、雑排水管・B

3 対応性・更新性			0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	② 倉庫1階:7.0m、2階:5.7m、事務所1階:7.0m 倉庫利用が目的なので広い空間を確保している 2階床1.5トン/㎡(147KN/㎡)	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		モデル建物法 BPIm0.83	3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		倉庫部設備未設置部分が多い	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	1.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、便器擬音装置付	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
		軽鉄+仕上材の構成により 分別を容易にしている							
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆材の使用	3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1		消火剤	-	-	-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)	-	5.0	0.50	-	-	-	
3		冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器設置なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1		雨水排水負荷低減	独自	3.0	0.25	-	-	-	
2		汚水処理負荷抑制	独自	3.0	0.25	-	-	-	
3		交通負荷抑制	独自	5.0	0.25	-	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	-	
敷地内駐車場の完備									
3 周辺環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	-	-	
1		騒音	独自	-	-	-	-	-	
2		振動	独自	-	-	-	-	-	
3		悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.6	1.9	0.67	-	-	-	
1		風害の抑制	-	1.0	0.70	-	-	-	
2		砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	-	
3		日照障害の抑制	-	4.0	0.30	-	-	-	
		日影規制は無いが第一種住居地域規制をクリアできる							
3.3 光害の抑制			0.3	3.7	0.33	-	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-	-	
2		屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	
		LEDを採用し、高効率、高い照明率を実現する							

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:11.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 西、北、東境界側は緑地形成に努め、敷地南側は車路、駐車場空間とし、隣地からの建物の距離を確保した。窓面積を少なくし、騒音、光害の影響を少なくするように努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 評価対象外。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 空間のゆとりについては主用途が倉庫であるため、高さ、床荷重にはゆとりを持たせるよう配慮している。倉庫:1階階高は7.0m、2階は5.7m、事務エリア1階は7.0m、2階床積載荷重は1.5トン/㎡を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 西、北、東面の境界沿いは緑地形成に努め、南面は倉庫用の同業者が隣接しておることもあり、車路、トラックヤードを設けた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一般照明機器をLEDとする。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型洋便器、自動洗浄小便器、自動水栓(一部)、F☆☆☆☆仕上げ材の使用。(塗装材、錆び止め、塗床材)。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 油水分離槽の設置あり。従業員分と来客駐車場の設置あり。自転車置場(屋根付)の設置あり。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。